

平成21年の「山岳遭難」の状況

— 全国の発生件数は1,676件（前年比45件増） —

ハイキングや本格的な登山、山菜取りなどで山に親しむ人が多くなっています。山には風景や草花など日常生活では味わえない素晴らしいものがたくさんあります。

最近「山ガール」や「山スカート」などといった言葉に代表されるように、山に入る女性も増え、登山の服装もファッション性が豊かになっています。

しかし、山に入る際には、気象条件の変化、行程のゆとり、登山する山に合った装備、体力と体調管理に努め、自分や身の回りの人が山岳で遭難しないように一層の注意をすることが必要です。

この「山岳遭難」について、警察庁が発表した「平成21年中における山岳遭難の概況」によると平成21年の全国の山岳遭難発生件数は1,676件（前年比+45件）、遭難者数は2,085人（同+152人）でした。

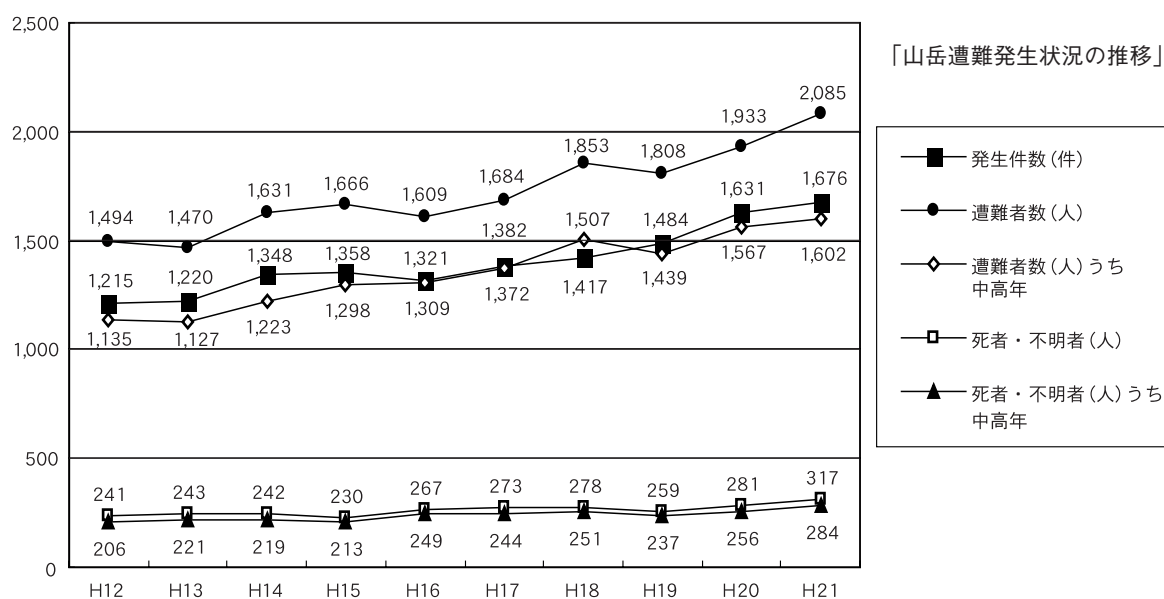
1. 遭難発生件数と遭難者数の状況

警察庁の発表によると、平成21年の発生件数は1,676件（前年比+45件）、遭難者数2,085人（同+152人）、うち死者・行方不明者317人（同+36人）となり、いずれも昭和36年以降で最も悪い記録になりました。

この中で、中高年（40歳以上の者を示す）の遭難者数は1,602人（構成比76.8%）、うち死者・行方不明者284人（同89.6%）でした。

「過去10年間の山岳遭難発生状況」

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
発生件数(件)	1,215	1,220	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676
遭難者数(人)	1,494	1,470	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085
うち中高年	1,135	1,127	1,223	1,298	1,309	1,372	1,507	1,439	1,567	1,602
死者・不明者(人)	241	243	242	230	267	273	278	259	281	317
うち中高年	206	221	219	213	249	244	251	237	256	284



(資料：警察庁「H21年中における山岳遭難の概況」)

2. 目的別にみた遭難状況

目的別にみた遭難者数の上位3位は、第1位が「登山」1,165人（前年比+78人）で全遭難者数の5割を占めました。第2位が「山菜・茸取り」479人（同+62人）、第3位が「ハイキング」121人（同+20人）の順でした。上位3位で全体の8割を超えています。一方、増加率でみた上位3位は、第1位が前年比92.9%増の「写真撮影」27人（前年比+13人）でした。第2位が同83.3%増の「沢登り」33人（同+15人）、第3位が同19.8%増の「ハイキング」121人（同+20人）の順でした。

「目的別山岳遭難者数」

(単位：人、%)

	平成21年		平成20年		増減			
	人員	(うち中高年)	人員	(うち中高年)	人員	(うち中高年)	人員増減率	
登山	登山	1,165	838	1,087	842	+78	▲4	7.2%
	ハイキング	121	94	101	77	+20	+17	19.8%
	スキー登山	56	29	51	32	+5	▲3	9.8%
	沢登り	33	19	18	15	+15	+4	83.3%
	岩登り	20	16	24	18	▲4	▲2	▲16.7%
登山(合計)	1,395	996	1,281	984	+114	+12	8.9%	
山菜・茸取り	479	459	417	405	+62	+54	14.9%	
溪流釣り	27	22	28	26	▲1	▲4	▲3.6%	
作業	40	31	46	36	▲6	▲5	▲13.0%	
観光	63	31	60	41	+3	▲10	5.0%	
写真撮影	27	21	14	13	+13	+8	92.9%	
山岳信仰	18	16	25	21	▲7	▲5	▲28.0%	
自然鑑賞	2	2	5	5	▲3	▲3	▲60.0%	
狩猟	3	3	5	5	▲2	▲2	▲40.0%	
その他	31	21	52	31	▲21	▲10	▲40.4%	
合計(人)	2,085	1,602	1,933	1,567	+152	35	7.9%	

※ は遭難者数上位3位を示す

(資料：警察庁「H21年中における山岳遭難の概況」)

3. 原因別にみた遭難状況

原因別にみた遭難者数の上位3位は、第1位が「道迷い」906人（前年比+137人）で全遭難原因の4割を占めました。第2位が「滑落」325人（同△25人）、第3位が「転倒」259人（同△6人）の順でした。上位3位で全体の7割を超えています。一方、増加率でみた上位3位（不明を除く）は、第1位が前年比275.0%増の「悪天候」45人（前年比+33人）でした。第2位が同62.5%増の「野生動物襲撃」39人（同+15人）、第3位が同44.9%増の「疲労」129人（同+40人）の順でした。

「原因(態様)別山岳遭難者数」

(単位：人、%)

	平成21年		平成20年		増減		
	人員	(うち中高年)	人員	(うち中高年)	人員	(うち中高年)	人員増減率
滑落	325	269	350	299	▲25	▲30	▲7.1%
転倒	259	224	265	230	▲6	▲6	▲2.3%
転落	84	74	102	91	▲18	▲17	▲17.6%
道迷い	906	630	769	580	+137	+50	17.8%
疲労	129	91	89	75	+40	+16	44.9%
病気	146	118	170	139	▲24	▲21	▲14.1%
落石	12	7	12	9	0	▲2	0.0%
雪崩	13	7	9	5	+4	+2	44.4%
落雷	1	1	10	10	▲9	▲9	▲90.0%
悪天候	45	37	12	10	+33	+27	275.0%
有毒ガス	0	0	0	0	0	0	—
鉄砲水	2	0	21	20	▲19	▲20	▲90.5%
野生動物襲撃	39	33	24	19	+15	+14	62.5%
不明	66	64	43	36	+23	+28	53.5%
その他	58	47	57	44	+1	+3	1.8%
合計	2,085	1,602	1,933	1,567	+152	+35	7.9%

※ は遭難者数上位3位を示す

(資料：警察庁「H21年中における山岳遭難の概況」)

4. 年齢階層別にみた遭難者の状況

年齢別（5歳階級）にみた遭難者の上位3位は、第1位が「65～69歳」301人（前年比+48人）でした。第2位が「60～64歳」297人（同△26人）、第3位が「70～74歳」232人（同+34人）でした。上位3位の年齢階層で全体の約4割を占めています。一方、増加率が3割を超えて大幅に増加したのは4つの年齢階層で、「15歳未満」が前年比68.4%増で96人（前年比+39人）、「15～19歳」が同60.6%増で53人（同+20人）、「25～29歳」が同37.9%増で80人（同+22人）、「30～34歳」が同34.2%増で102人（同+26人）でした。伸び率が3割を超えたのはこの35歳未満の4つの年齢階層となり、若年層の遭難件数の増加が顕著でした。

「年齢別（5歳階級）山岳遭難者数」

（単位：人、％）

	平成21年		平成20年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
15歳未満	96	4.6%	57	2.9%	+39	68.4%	
15～19	53	2.5%	33	1.7%	+20	60.6%	
20～24	57	2.7%	65	3.4%	▲8	▲12.3%	
25～29	80	3.8%	58	3.0%	+22	37.9%	
30～34	102	4.9%	76	3.9%	+26	34.2%	
35～39	95	4.6%	76	3.9%	+19	25.0%	
中高年	40～44	103	4.9%	87	4.5%	+16	18.4%
	45～49	98	4.7%	106	5.5%	▲8	▲7.5%
	50～54	145	7.0%	136	7.0%	+9	6.6%
	55～59	216	10.4%	234	12.1%	▲18	▲7.7%
	60～64	297	14.2%	323	16.7%	▲26	▲8.0%
	65～69	301	14.4%	253	13.1%	+48	19.0%
	70～74	232	11.1%	198	10.2%	+34	17.2%
	75～79	128	6.1%	142	7.3%	▲14	▲9.9%
	80～84	56	2.7%	63	3.3%	▲7	▲11.1%
	85～89	23	1.1%	18	0.9%	+5	27.8%
90歳以上	3	0.1%	7	0.4%	▲4	▲57.1%	
不明	0	0.0%	1	0.1%	▲1	▲100.0%	
計（人）	2,085		1,933		+152	7.9%	

（資料：警察庁「H21年中における山岳遭難の概況」）

5. 単独登山者の遭難状況

単独登山者の遭難発生状況は前年比11.5%増の667人（前年比+69人）でした。うち死者・行方不明者は同16.8%増の160人（同+23人）で、単独登山者の死者、行方不明者の構成割合は24.0%になりました。

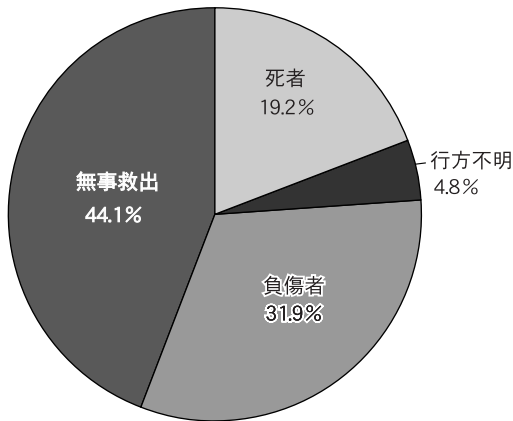
なお、複数登山者（2人以上）の死者、行方不明者の構成割合は11.0%でした。単独登山者の死者、行方不明者の発生割合は、複数登山者の2倍にまで高まっています。

「単独登山者の山岳遭難発生状況」

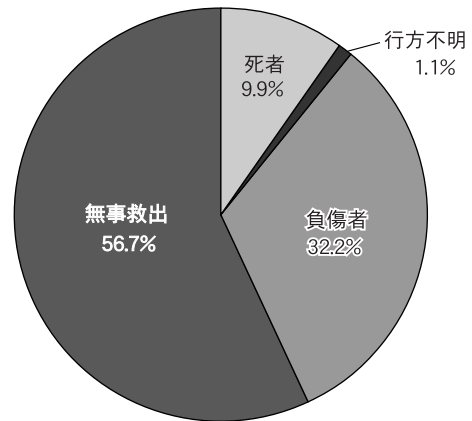
(単位：人、%)

		平成 21 年		平成 20 年		増 減		
		人 員	構 成 比	人 員	構 成 比	人 員	増 減 率	
遭 難 者	死者・不明者	死 者	128	19.2%	117	19.6%	+11	9.4%
		行方不明者	32	4.8%	20	3.3%	+12	60.0%
		合 計	160	24.0%	137	22.9%	+23	16.8%
	負 傷 者	213	31.9%	195	32.6%	+18	9.2%	
	無 事 救 出	294	44.1%	266	44.5%	+28	10.5%	
	合 計	667		598		+69	11.5%	

平成21年「単独」登山者の遭難発生状況の割合



【参考】平成21年「複数」登山者の遭難発生状況の割合



(資料：警察庁「H21年中における山岳遭難の概況」)

6. 福島県と隣接6県の山岳遭難発生状況

平成21年の福島県の山岳遭難発生件数は65件（全国第10位）でした。福島県と隣接6県での発生件数を多い順にみると、第1位が新潟県84件（全国第5位）、第2位が福島県65件（同10位）、第3位が山形県61件（同13位）、第4位が群馬県59件（同14位）、第5位が栃木県31件（同20位）、第6位が宮城県17件（同23位）、第7位が茨城県5件（同36位）でした。

福島県と隣接6県の遭難発生



(当研究所作成)

都道府県別山岳遭難発生状況（平成21年中）

（単位：件・人）

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明	負傷者	無事救出
長野県	173	186	38	6	92	50
北海道	162	224	25	6	32	161
富山県	122	131	17	2	60	52
秋田県	85	97	16	4	28	49
新潟県	84	97	16	3	36	42
静岡県	82	147	12	5	35	95
警視庁（東京都）	70	82	6	0	39	37
神奈川県	69	86	6	1	31	48
山梨県	67	75	15	3	39	18
福島県	65	82	12	0	28	42
青森県	64	80	3	1	9	67
岩手県	62	74	8	4	26	36
山形県	61	67	13	1	26	27
群馬県	59	65	11	0	34	20
岐阜県	56	70	10	4	24	32
埼玉県	45	53	2	1	26	24
兵庫県	43	72	8	0	11	53
大分県	38	49	4	1	18	26
滋賀県	33	46	6	0	7	33
栃木県	31	41	7	0	17	17
石川県	18	22	5	2	4	11
三重県	18	25	5	1	4	15
宮城県	17	20	5	0	1	14
鹿児島県	16	20	0	1	6	13
愛媛県	15	15	1	0	1	13
奈良県	14	16	3	2	1	10
鳥取県	14	19	3	0	5	11
福井県	12	17	2	0	4	11
福岡県	11	11	1	0	4	6
京都府	10	11	1	0	0	10
和歌山県	9	18	3	0	3	12
宮崎県	8	12	1	0	3	8
熊本県	7	13	0	0	7	6
千葉県	6	8	0	0	2	6
徳島県	6	6	0	0	1	5
茨城県	5	6	1	0	0	5
岡山県	4	4	1	0	2	1
愛知県	3	3	2	0	0	1
佐賀県	3	3	0	0	1	2
長崎県	3	5	0	0	0	5
鳥根県	2	3	0	0	1	2
広島県	2	2	0	0	1	1
香川県	1	1	0	0	1	0
高知県	1	1	0	0	0	1
大阪府	0	0	0	0	0	0
山口県	0	0	0	0	0	0
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	1,676	2,085	269	48	670	1,098

（資料：警察庁「H21年中における山岳遭難の概況」）

（出典：警察庁「平成21年中における山岳遭難の概況」）

（担当：白石）